

2021 年度実施概要

学校名

福島県南会津郡只見町立朝日小学校

採択活動名

つながりのなかで育む「只見愛」～未来へ向かって行動できる子供の育成～ 海につながる ESD の実践

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. たのしいあき いっぱい	1	生活
2. うごく うごく わたしのおもちゃ	2	生活
3. 只見町の自然博士になろう	3	総合的な学習の時間
4. 只見の水を守れ！	4	総合的な学習の時間
5. 只見の食文化	5	総合的な学習の時間
6. 只見町の未来を考えよう	6	総合的な学習の時間

取り組みの概要

6年間を通して育成していく児童の姿を「只見愛をもち、ふるさとを持続・発展させるために考え、未来に向かって行動できる児童」とし、各学年で取り組む内容を系統的に位置づけ、それぞれにテーマを設定しながら実践した。実践にあたっては、生活科、総合的な学習に時間を中核に、各教科や特別活動等と連携を図り、教科横断的に取り組んだ。地域学習によるふるさとを愛する心（只見愛）を大切に、「自分たちのふるさとの問題は海洋や地球の問題の影響を受けている」こと、「自分たちが地域で取り組む実践が地球や海洋の問題を解決していくことにつながっていく」ことをベースとして、内陸部ならではの海洋教育を推進することができた。

<各学年での取組>

○ 低学年においては、ふるさとの「人・もの・こと」に直接触れ、体験することを通して、自分たちの地域のよさを存分に感じる学習を行い、海洋学習への素地づくりを行った。

・1年生のテーマ：「だいすきあさひ」

春夏秋冬の公園や校庭で、身近な自然と関わり、それらを利用して遊ぶことを通して、自然の不思議さや季節による変化、朝日地区のよさに気づくことができた。また、児童が協力して栽培活動に取り組み、サツマイモや枝豆、カボチャを収穫し、実りの秋の喜びを味わわせるとともに、それらを利用してハロウィン用のランタン作りをしたり、枝豆で打ち豆作りをしたりした。このことを通して、季節の行事に主体的に関わり、郷土の伝統的な食べ物について体験を通して学ぶことができた。

・2年生のテーマ：「もっとなかよしまちの人」

「まちたんけん」において朝日地区で働く人たちと話をしたり、体験活動をさせてもらったりして、地域の人にたくさん触れる機会を設けた。また、「生き物なかよし大作戦」において、生き物を探して捕まえたり、飼育したりする活動を通して、只見に生息する生き物への親しみをもたせることができた。さらに、地域の方から只見に伝わる昔語りを教えていただき、ふるさと只見への愛情を育むことができた。

- 中学年では、只見の自然の尊さに気づき、守っていこうとする心情を育てるとともに、水の循環や地球の自然と只見の自然の関係、只見や地球の自然の問題に気づくことができるようにした。
- ・ 3年生のテーマ：「只見の四季・自然」

只見の豊かな自然について探究することで、自然環境の素晴らしさや豊かな生態系の維持について理解を深めることができた。また、ブナの森を中心とし、ブナの実は多くの生き物の食料となり、葉は小さな生き物たちに分解され腐葉土の層を形成すること、水を濾過・貯水するはたらきをし、森で蓄えられた栄養が流域の土地や海を豊かにしていることに気づかせることができた。単元における追究活動を通して、ブナの森を中心とした只見の自然環境の素晴らしさに気づき、実感することで、地域学習によるふるさとを愛する心（只見愛）を育成することができた。
 - ・ 4年生のテーマ：「ユネスコエコパーク、水を探れ、守れ！」

只見の川の特異性について知ることで、その貴重さに気づき、将来にわたって保全していくための意識や実際の行動に対して自分の考えをもつことができた。身近な川である黒谷川を手がかりに、他の川との比較を通して気付いたことをまとめるとともに、「地球温暖化」というキーワードと美しい川・水の保全が深いところで結びついていることに気付くことができた。地球温暖化と只見の環境保全という視点が結びつくような具体例を、探究活動を通して実感することができた。
- 5学年では、海の素晴らしさ、楽しさや怖さについて直接体験を通して実感するとともに、只見の文化や歴史が海と深いかかわりがあること、ユネスコエコパークに登録されている自然豊かな地域に起こっている農業や災害、気候などの問題が、地球規模の気候変動や海洋の問題と関連が深いことに気づくことができるようにした。
- ・ 5年生のテーマ：「只見の食と農」

只見の伝統的な食文化である「おひら」を題材として、そこに使われた食材から当時の人々の生活や思いを知ることができた。特に昆布の存在は海との繋がりを示唆するものであり、これを手がかりとして只見と海との関係性を学ぶことができた。また、只見町で起きている環境問題の原因が地球温暖化にあること、地球温暖化を止めるために自分たちができることを考えることができた。
- 6学年では、これまでの学習をもとに、ふるさと只見町が持続的に発展していくためにはどんなことが必要か、海洋や地球環境の問題と関連付けながら考え議論し、取り組んでいくことを提案したり、行動したりできるようにした。
- ・ 6年生のテーマ：「只見町の未来を考えよう」

地球規模の環境問題や海洋の問題の解決が、只見の環境を守ることに繋がっていることに気づき、持続可能な只見町にするために、自分たちにできることを考え行動することができた。近年、日本や世界で起きている環境問題から、只見町で起きている雪不足や集中豪雨について調べていくことで、地球規模の環境問題を自分事としてとらえることができた。また、その原因を探究することで、自分たちにできることがあることに気づき、「ワンステップアクション」として、その取組を自ら実行したり、発信したりすることにつなげることができた。その姿は、6年生で目指す児童像そのものであり、6年間で目指す児童の姿に迫ることができた。

<学年テーマ以外での主な取組>

1 只見町の雄大な自然を味わう活動：「なかよし活動」

- 全校児童で学校近くの黒谷川へ行き、地域の方に教えていただきながら川遊びや魚取りをしたり、縦割り班で活動したりすることを通して、自然のすばらしさを感じると共に、川と海のつながりにつ

いて気づくことができるようにした。

2 只見町の雄大な自然を味わう活動：「田子倉湖ボート散策」

- 1～4年生を対象に、只見町にある田子倉湖の散策活動を行った。ボートをチャーターし、普段立ち入れないような場所を探検するなど、雄大な自然を存分に味わうことができた。また、水の循環についても関心をもたせることができた。

3 海に直接触れ、素晴らしさや課題に気づく活動：「海洋交流学习」

- 5・6児童を対象に、海辺の地域（いわき市）で交流学习を行った。小名浜ダイクルーズの体験や福島県水産海洋研究センターでの見学活動、いわき市立四倉小学校戸の交流活動を通して、海へのあこがれを抱かせることができた。また、海岸散策活動において、海岸に漂着するごみの問題に気づかせ、環境問題への課題意識をもたせることができた。

4 地球温暖化防止への意識を持たせる活動：「環境活動スタート事業」

福島県が主催する「環境活動スタート事業」に取組み気象庁福島气象台調査官を招いて「地球温暖化何が起きる？何が出来る？」をテーマに講演をいただいた。地球温暖化防止に向けて自分たちができることを行っていきたいという思いをもたせることができた。

5 体験したことから学んだことを発表する活動：「学習発表会」

- 学びの成果を保護者に発表・表現することを通して、海への思いやつながりについての考えを深め、発信する機会とした。高学年では、節電・節水等、地球温暖化防止のために自分たちから身近にできる「ワンステップアクション」の取組を呼びかけた。

6 体験したことから学んだことを発表する活動：「地域・町役場の方々への発表」「全国海洋サミット」

- 高学年の「ワンステップアクションの」取組は、保護者だけでなく、地域の方々や町長等町役場の方々にも呼びかける場を設定し、大きく広めることにつながった。また、全国海洋サミットにおいてその必要性を全国の仲間に発信することができた。

7 地球温暖化防止への取り組み：福島議定書（全校生）

- 温室効果ガス削減に県民総参加で取り組むための福島県の事業「福島議定書」に取り組んだ。高学年の「ワンステップアクション」の取組が「福島県議定書 学校版」において最優秀賞を受賞し、県知事へ取組を報告する等、自分たちで活動を考え、実践し、実践の必要性を広く発信することができた。



<なかよし活動 黒谷川川遊び>



<海洋交流学习 海岸散策>



<学習発表会 地球温暖化防止の呼びかけ>



<町長他町役場職員へ 地球温暖化防止の呼びかけ>



<全国の仲間へ 全国海洋サミット>



<県知事へのオンラインによる呼びかけ 福島議定書>